

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475・0966 愛知県半田市岩滑西町1・10・1 Tel. 0569・26・4888 <http://www.nankichi.gr.jp>



美智子さまと南吉の詩

昨

年、上皇后美智子
さまが皇后御在位
中にゆかりを持つ

た施設ということで、宮内
庁から美智子さまに関する
書籍五冊を寄贈していただ
きました。その中の一冊『降
りつむ―皇后陛下美智子さ
まの英訳と朗読―』（毎
日新聞出版）では、南吉を
含む五人の詩人の詩が、美
智子さまによる英訳ととも
に紹介されています。これ
を記念して、十一月二十三
日（土）から特別展示「上
皇后美智子さまと英訳詩」
を開催、初日に開幕式典を
行いました。

式典には、市長を始め来
賓の方々と、平成二十二年
の行幸啓で天皇陛下と美智
子さまをご案内した矢口
榮元新美南吉記念館館長
にご出席いただきました。

そして美智子さまが熱心に
展示をご覧になられていた
ことや、時折天皇陛下にご
自分で南吉についてご説明
されていたことなど、当時
を振り返ったのエピソード
を話していただきました。

また、式典では美智子さ
まが英訳された南吉の詩
「落葉」の朗読も行いまし
た（左上段写真）。朗読し
てくれたのは、半田高校二
年生の竹内裕結さんと、竹
内さんが通っていた英語教
室の先生の蜂須賀幸路さん
です。蜂須賀さんの教室で
は、以前南吉童話「狐」の
英訳に取り組み、竹内さん
始め四人の生徒がそれを
『FOX』という題で自費
出版しています。そんな竹
内さんが日本語で「落葉」
を朗読すると、続いて蜂須
賀さんが美智子さまによる
英訳を読み上げました。

当日は朝から冬晴れの暖
かい一日で、とても穏やか
な式となりました。

特別展示の会期は一月
十三日（月・祝）までです。
会場では、今回寄贈された
五冊の本と同じものを手に
取って読むことができるほ
か、美智子さまが詩の朗読
をされている『降りつむ』
付属のDVDも許可を得て
上映していますので、ぜひ
ご観覧ください。

第31回 新美南古童話賞入賞者発表

最優秀賞（文部科学大臣賞）

「カンとネル」／のむらきみこさん

（岐阜県各務原市）



○審査員選評

ほっこりする、やさしいお話でした。サーカスで暮らす子ネズミのカンが、ゾウのネルの大きな耳のかげに隠れて奮闘する姿が目につくようです。この、大きなゾウと小さなネズミというキャラクターをいかしたアイデアが、物語を支えています。絵本にしても楽しいかな、と思えるテンポのいい作品でした。（富安陽子）

新美南古オマージュ部門

大賞（半田市教育委員会賞）

「とびはねる!!」／平野葵さん

ひらのあおい

（兵庫県芦屋市）



○審査員選評

本作は後日譚の色合いの濃さが気にならないわけではありませんが、「加助」を主役に据えたことや、新たに「ゴン太」という狐を登場させ、「ごん」とオマージュさせながらその活躍を描いた点に独創性があります。何より「加助」の孫として、「茂平」を登場させた工夫には大いに感心しました。（酒井晶代）

第31回新美南古童話賞には一五六一編の応募があり、その中から十九編の作品が入賞しました。

最優秀賞に輝いたのむらきみこさん作「カンとネル」は、サーカスで働くカンという子ネズミのお話です。カンはお母さんと一緒にサーカスの動物たちを繋ぐ連絡役をしていましたが、心の中では自分も拍手かっさいを受けてみたいと思っています。そんな時、仲良しのゾウであるネルの様子がおかしいと聞かれます。訪ねてみると、ネルは耳が遠くなり、芸が上手くできなくなってしまうようです。このままではネルがサーカスから出されてしまうかもしれない、そう思ったカンは……。二匹の友情と作品全体を流れる優しさに、温かく包み込まれるようなお話でした。

新美南古オマージュ部門

の大賞となった平野葵さん作「とびはねる!!」は、「ごんぎつね」をオマージュした作品です。物語は「ごんぎつね」に登場した加助が、孫にごんの話をねだられるところから始まります。ご

んを撃ってしまった後、兵十は失意の中にいましたが、怪我をした子狐を拾ったからは少しずつ元氣を取り戻していききました。その狐は「ゴン太」と名付けられ、どこに行くにも兵十についてくるようになります。それから数年後。ある雨のひどい夜、突然加助の家に「ゴン太」が飛び込んできて……。最後の展開まで含めて、「ごんぎつね」をしっかり読み込んでいると思わされる作品でした。

どちらも当館ホームページで公開していますのでぜひご覧ください。そのほかの入賞者は次の通りです。

*

自由創作部門

【一般の部】

▽優秀賞

〈愛知県教育委員会賞〉

該当作品なし

〈半田市長賞〉

「雨のしずく」

天童一誓（岩手県盛岡市）

▽特別賞

〈ミツカン賞〉

「ずっと使えるチケット」
有賀佐知子
あるがさちこ

（神奈川県横浜市）

〈知多信用金庫賞〉

- 「いちばんきれいな黒が飛ぶ日」
後藤文子（長野県長野市）
〈中部電力株式会社賞〉
「『ですか』のおじさん」
のたますお（東京都渋谷区）
▽佳作
「桜草の道しるべ」
立岩由子（東京都豊島区）
【中学生の部】
▽優秀賞
〈公益社団法人 半田青年会議所賞〉
「海と朝顔」
岸本彩和（愛知県半田市）
▽特別賞
〈半田信用金庫賞〉
「ひとりのオオカミのはなし」
内田和子（愛知県半田市）
▽佳作
「足を滑らせただけなのに」
……
阪野凜斗（愛知県東海市）
「ほしぞら」
水野智琳
（愛知県知多郡美浜町）
【小学生高学年の部】
▽優秀賞
〈審査員奨励賞〉
「友達になる気はありません。」
遠藤歌乃（愛知県東海市）
▽佳作
「いすの世界」
- 関戸太一（愛知県東海市）
「しろいくつ」
高木美月（愛知県半田市）
【小学生低学年の部】
▽優秀賞
〈中日新聞社賞〉
「かえでちゃんのは」
立花楓奈（京都府京都市）
▽佳作
「ななみちゃんとクレヨンさん」
池田結瑞（愛知県東海市）
「子ねこの小さなぼうけん」
尾花和奏（京都府京都市）
- ＊
新美南吉オマージュ部門
▽優秀賞
〈半田市議会議長賞〉
「おまえなんかくつてやる」
安希（鹿児島県鹿児島市）
▽特別賞
〈新美南吉顕彰会賞〉
「しよいかこの婆様」
田中聡子（長野県飯田市）
- ＊
今年度は応募数は減少したものの、選考の段階で、大人も子どももレベルが高くなってきているという審査員の声が聞かれました。入選した皆様、おめでとうございます。表彰式は二月二十二日（土）、記念館にて開催いたします。



昨年十一月三十日（土）、半田空の科学館で、「朗読コンサート」月に捧げる愛の詩」を開催しました。

今回のコンサートは、ストップモーションアニメーション「ぐん／Gon, The Little Fox」の公開を記念したものです。平山晶子さんによるピアノと山本直人さんによるオーボエのアンサンブル、そして「南吉童話お話の会 でんでんむし」の朗読を、二部構成で楽しんでいただきました。

南吉は月をこよなく愛した詩人です。そこで第一部では、まず南吉の詩「月の角笛」「月は」の朗読と、ドビュッシーの「月の光」を演奏し、聴衆を引き込んだ。

でいきました。次に行われたのは、ストップモーションアニメーション「ごん」の上映です。会場となったプラネタリウムホールいっぱい「ごん」が投影されると、繊細な映像美や胸を打つストーリーに、観客はすっかり魅了されていました。その余韻に浸りながら、詩「葬式」や星の曲メドレーなどを奏で、第一部は終了しました。

続く第二部は、「エディックトピアフを讀えて」「枯葉」と、晩秋にぴったりの曲から始まりました。「ごん」でさまざまな生き物が登場したことから、小さな生き物をユーモラスに描いた南吉の詩「殿様蛙」「こおろぎ」を朗読したり、サン＝サーンスの「白鳥」を演奏すると、プログラムは「鴛鴦」の朗読へ。「鴛鴦」は昭和十年、初恋の人木本咸子と別れた南吉が、純愛を求めて苦しむ青年を描いた



小説です。その後半部が情感たっぷりに読み上げられ、最後、水底から仙人の笛が聞こえてくる場面へ至ると、山本さんによるオーボエの音色が優しく広がりました（右写真）。それを受け、コンサート最後の曲となるエルガーの「愛の挨拶」がしつとりと演奏され、会場は盛大な拍手に包まれました。さらに、アンコールに応えて平山さんと山本さんが「ザ・クリスマスソング」を披露すると、お二人にはもう一度惜しみない拍手が贈られました。ちようど、夜空にくつきり月が浮かぶ頃、素敵なひと時になったと思います。

雑誌『カシコイ二年小学生』見つかる！

南吉の幼年童話『ゲタニバケル』の初出誌

東京時代の新美南吉が幼年童話を発表していた雑誌が『カシコイ一年小学生』『カシコイ二年小学生』です。当館でも一部を収蔵していますが、この度これまで見つかっていなかった号を手に入れることができました。



なっています。

当館ではこれまで『カシコイ』両誌二十五冊を収蔵していましたが、それらの中に、南吉の「アメダマ」「あし（ウマノアシ）」「タレノ

カゲ（影）」「子供の好きな神さま（小さい神さま）」（カッコ内は掲載時のタイトル）を載せた号があり、企画展や研究紀要で内容を紹介してきました。

今回見つかったのは、『カシコイ二年小学生』第三巻第十一号（昭和九年十一月号／上写真・表紙）です。

当館では一つ前の号を収蔵しており、次号予告に執筆陣の一人として南吉の名前があったことから彼の作品が掲載されている可能性が高いと考えていました。

古書店で売られていたもので、南吉の「ゲタニバケル」が「下駄にばけた小狸」というタイトルで田原利一の挿絵三点とともに載っています（左下写真）。同作品は昭和十年五月頃に書かれた自筆原稿が残っているだけで、長らく、南吉の死後、異聖歌の編集で出版された幼年童話集『がちょうのたんじょうぶ』（昭和二十五年／羽田書店）が初出だと考えられていたことが、今回それより早く同誌へ発表されていたことが確認できました。

お話は、下駄に化けて道端に転がっていた小狸を、鼻緒が切れて困っていた侍が見つけて履いて行ってしまうというものの、自筆原稿では最後に侍に駄賃をもらった小狸は苦しかったことも忘れ、喜



び勇んで母狸のもとへ帰って行きますが、雑誌では駄賃をもらう部分はなく、小狸の無事を喜んで母子でぼんぼこ踊りを踊るという結末が付け加えられています。編集者によるものでしょうか、読者層を意識して、娯楽性を強調した結末に変えられています。

他には、浜田広介の童謡「さじのたび」も掲載されています。全集未掲載の作品で、今後の調査研究によつては新発見となるかもしれません。

現在、記念館では新しく入手した号を展示しています（三月三十一日）。ぜひ、ご覧ください。

八代監督来たる

昨年、ストップモーションアニメーション「ゴン／Gon, The Little Fox」が完成し、公開が始まりました。記念館ではこれを記念して一月十三日まで企画展を開催しています。

その「ゴン」を制作した八代健志監督が、昨年十一月四日（月・祝）に記念館でミュージアムトークをしてくださいました。さらに、翌日には名古屋のカフェ「トド」で「ゴン」の特別上映会と八代監督＆当館学芸員のトークショーがあり（左写真）、連日、映像へのこだわりをたつぷりと語っていたいただきました。

現在「ゴン」は半田空の科学館と安城市文化センターで上映されています。



記念館からのお知らせ

ミュージアムトーク

学芸員が企画展「ストップモーションアニメーションごんの世界」を解説。

日時 1月12日(日)
13時30分～14時
※展示観覧料(高校生以上220円)が必要です

榊原澄香ペーパーアート展

南吉童話を題材にペーパーアート作品を制作されている榊原澄香さんの作品展です。

会期 1月18日(土)～
4月12日(日)

場所 記念館常設展示室
※同じく観覧料が必要です



【関連行事】

ペーパーアート教室

榊原澄香さんを講師に、南吉の童話「かげ」を半立

体のペーパーアートにして作ります。



▲B5サイズ(額縁つき)

日時 2月8日(土)
13時30分～15時30分

場所 記念館工作室

対象 小学4年生以上(大人のみの参加も可)

定員 15名(申込み順)

持ち物 はさみ、ピンセット、木工用ボンド、鉛筆、カッター

参加費 500円

申込み 1月11日(土)9時30分から電話又は窓口へ
※1件の申込みは4名まで

令和元年度文学講座

新美南吉はなぜ故郷を舞台に児童文学を書いたのか?

南吉が故郷を舞台に児童文学を書いたのはなぜか?

単に故郷や子どもが好きというだけではない、南吉ならではの理由を探ります。

日時 ①2月23日(日)
10時30分～12時
②2月29日(土)
13時30分～15時

※二回とも同じ内容です

場所 記念館会議室

定員 各回30名(申込み順)

講師 記念館学芸員

受講料 無料

申込み 1月18日(土)9時30分から電話又は窓口へ

以上の事業への問合せ・申込みは新美南吉記念館まで
TEL 0569(26)4888

日誌抄・

十月(神無月)

▼1日 横川小で出前授業。86名参加▼2日 半田小で出前授業。73名参加▼同日 板山小で出前授業。47名参加▼4日 「ごんの誕生日」。60名参加▼同日 「ごんの秋まつり」終了。期間中来場者数13万人(来館者数9818人)

▼同日 ミュージアムトーク。20名参加▼同日 乙川小で出前授業。91名参加▼同日 半田空の科学館でストップモーションアニメーション「ごん／Gon, The Little Fox」が上映開始▼5

日 半田空の科学館で秋の企画展「体験！ストップモーションアニメの世界」始まる(1月5日)▼9日 成岩小で出前授業。103名参加▼同日 亀崎小で出前授業。109名参加▼10日 ならわ学園で出前授業。2名参加▼14日 「安城 親子バス見学会」。13名参加▼16日 花園小で出前授業。106名参加▼19日 ミュージアムトーク。2名参加▼20日 第31回新美南吉童話賞一次審査会▼22日 即位礼正殿の儀奉祝無料開館▼27日 田んぼアート稲刈り▼同日 特別展「日本丁抹と南吉の暮らし」終了。会期中来館者数25960人▼同日 第170回新美南吉読書会。15名参加▼29日 宮池小で出前授業。130名参加

十一月(霜月)

▼1日 第31回新美南吉童話賞最終審査会▼2日 企

画展「ストップモーションアニメーションごんの世界」始まる(1月13日)▼4日 「八代監督・ミュージアムトーク」。86名参加▼同日 ガイドボランティア例会▼5日 「ごん／Gon, The Little Fox」公開記念特別上映会。ごんの上映及び八代健志監督と当館学芸員のトークショー。74名参加。於トド(名古屋)▼7日 雁宿小で出前授業。71名参加▼9日 ミュージアムトーク。9名参加▼23日 特別展示「上皇后美智子さまと英訳詩」始まる(1月13日)。開幕式典開催。於記念館エントランスホール▼同日 ミュージアムトーク。16名参加▼24日 第171回新美南吉読書会。14名参加▼30日 「朗読コンサート」月に捧げる愛の詩」。169名参加

1月の休館日

1日～3日、6日(月)、14日(火)、15日(水)、20日(月)、27日(月) (2月の休館日)
3日(月)、10日(月)、12日(水)、17日(月)、25日(火)

令和元年度半田市新美南吉読書感想画コンクール受賞作品

半田市教育委員会が開催している半田市新美南吉読書感想画コンクール（事務局 半田市立図書館）には、今年も多く応募がありました。このコンクールは市内の小中学生が南吉作品を読んだ感想を絵に描くというもので、審査に小中学校の教諭をはじめ、当館館長も加わっています。

今年は1,452点の応募作の中から119点が選ばれました。ここでは半田市長賞、半田市教育委員会賞、新美南吉記念館賞、半田市立図書館賞、優秀賞（5点）を受賞した9点の作品をご紹介します。

〈新美南吉記念館では1月18日（土）～2月24日（月・祝）まで佳作をのぞく受賞作品36点を展示します〉



●半田市長賞

「後悔」

とりかえ りゆうき
取替 琉城（成岩中学校2年）



●半田市教育委員会賞

「みて！さかだちできるよ」

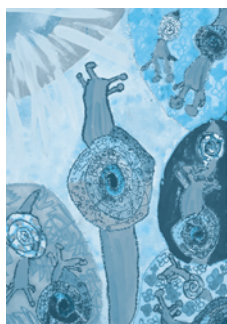
つげ りりあ
柘植 凛々愛（花園小学校1年）



●新美南吉記念館賞

「流れ星」

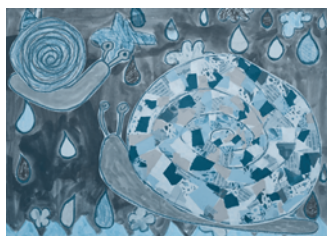
まつもと ゆうか
松本 優花（花園小学校4年）



●半田市立図書館賞

「明るいまらいへ」

たかはし りひと
高橋 理仁（成岩小学校3年）



●優秀賞

「でんでんむしのかなしみ」

やまわき えりな
山脇 咲菜（成岩小学校2年）



●優秀賞

「あめ玉」

おさだ たくみ
長田 創（雁宿小学校5年）



●優秀賞

「小さな命の物語」

いわた ともひろ
岩田 寛大（亀崎小学校6年）



●優秀賞

「ごん、お前だったのか…」

ふくい りゆうすけ
福井 龍ノ介（亀崎中学校1年）



●優秀賞

「期待と希望」

おやま やまと
小山 大和（半田中学校3年）